



前田 治 議員



録画映像

熱中症対策に関する件

問 北斗市における夏季の気温傾向は

答 市長
長期的には上昇している
と認識している

問 日本で頻発している猛暑や豪雨などの異常気象は、地球温暖化によって深刻化していると言われています。

北斗市においても30度前後の暑さが続き、市民の命と健康を脅かしており、より積極的な熱中症対策が求められています。

以下の点について、お伺いします。

(1) 北斗市の夏季の気温傾向について。

(2) 北斗市の過去5年間で、熱中症の疑いにより、救急搬送された人数について。

答 (市長) 今夏は、群馬県の伊勢崎市で国内における観測史上最高気温である41・8度を記録するなど、各地で連日の猛暑が続いており、本市においては、民間商業施設の協力もいただきながら、空調設備のある施設の開放を拡大するなど、熱中症対策に取り組んでいるところです。

北斗観測所における過去6年間の6月から8月の
平均気温及び真夏日の日数

年度	平均気温	真夏日の日数
令和2年度	20.3度	5日間
令和3年度	20.7度	15日間
令和4年度	20.2度	4日間
令和5年度	22.5度	30日間
令和6年度	21.9度	13日間
令和7年度	22.4度	28日間

(出典：総務課課内資料より)

(1) 札幌管区気象台の「北海道の気候変動と近年の天候」によると、道内7地点における6月から8月の平均気温は、明治31年の統計開始以降、上昇傾向にあり、近年になるほど気温の上昇が大きいとして、そのため、長期的傾向ということであれば、本市も上昇していると認識しています。

(2) 北斗市の過去5年間で、熱中症の疑いにより、救急搬送された人数は、令和2年度が19名、令和3年度が18名、令和4年度が13名、令和5年度が46名、令和6年度が12名となっています。

こども誰でも通園制度に関する件

問 実質的な増税になるが、市長の受けとめは

答 市長
増税に対し、私の考え方は申しませんが、子ども
のためになるのであれば
制度自体よりいいと思う

問 昨年6月、通常国会において、子ども・子育て支援法及び児童福祉法の一部改正する法律が成立し、来年度から「こども誰でも通園制度」が全国で開始されることになりました。

本制度の概要及び実施スケジュールをお知らせください。

答 (市長) 本制度は、生後6か月から満3歳未満の未就園児が保育所、認定こども園、幼稚園などの施設を保護者の就労要件にかかわらず、時間単位で柔軟に利用できるもので、月ごとに定められた一定の時間の範囲内で、定期的に、かつ自由にご利用できることを特徴としています。

また、財政面については、現時点で国からの支援等については、詳細な提示はありませんが、令和7年度の「乳児等通園支援事業」においては、国が4分の3を、市町村が4分の1を負担しており、利用実績等に応じた仕組みとなっています。

本市の実施スケジュールについて、市では、令和7年度を本格実施に向けた準備期間と位置づけています。

国においては、令和7年7月18日に、第1回こども誰でも通園制度の本格実施に向けた検討会を開催し、本年10月頃に制度の対応方針、12月には、こども誰でも通園制度の実施に関する手引の改正案が示される予定です。

本市としては、こうした国の動向を踏まえ、施設の受け入れ体制や、関係条例の整備のほか、関係機関や事業者との連携強化を図るとともに、令和8年1月以降、認可・認定手続きや、広報活動を行い、制度開始に向けた準備を順次進めてまいりたい。

問 こども誰でも通園制度を含む少子化対策のために、特定財源として、医療保険に上乗せして、国民から平均で月700円から900円の徴収が開始されます。

大企業や大金持ちが優遇される制度になっていることには一切手をつけず、格差社会を広げている一方で、生活苦にあえぐ国民にさらなる実質的な増税を強いるという政府のやり方に、非常に憤りを感じているが、市長の受けとめは。

答 (市長) 増税になるとかという部分に関しては、私の考え方は申しませんけれども、この制度自体は子どものためになるのであれば、よいと思っています。